

キャリア教育の視点で行う学校図書館改革は授業改善へとつながる

～学校図書館の学習センター化、情報センター化で育てる情報収集力、分析力の育成～

一般的に、これまで「多くの学校図書館は50年間眠り続けていた」と表現されることがあります。確かに書籍の貸し出し、返却という形では何十年もの間利用されてきましたが、授業での活用とか、調べ学習という視点ではあまり活用されてこなかったことは事実で、眠り続けていたと表現されても仕方ないのかもしれませんが。今こそ学校図書館を読書センター機能のみならず、学習センター、情報センターとして機能させる必要があります。現在の授業改革には、学習内容の中に資料を取り込むことや学校図書館そのものを学習センターとして活用することで授業の手法が変わり、授業力向上へ結びつくこととなります。

また、キャリア教育推進の視点で言えば、学校図書館の学習センター化、情報センター化に向けた取り組みは、学校全体のキャリア教育推進という意味でも大きな役割を果たすこととなります。社会人として求められる情報収集力、分析力を培う場として位置づけます。本校では、生徒1人1台のタブレットパソコンが導入され授業活用が積極的に進んでおり、インターネットによる検索等、ICT活用の教育手法は格段の進歩を見せています。このICT機器を使いこなす能力の育成は極めて重要であり、必要なキーワードを打ち込んでそのことに関する情報の中から必要なものを選択する手法は社会人として身に付けておかななくてはならない重要な能力と考えます。

一方で学校図書館を活用し、たくさんの資料を選択し、書籍を読み込みながら必要とする情報を探し出すプロセスもまた重要な能力といえます。キャリア教育の推進という視点で考えるとICT機器活用と学校図書館の活用は常に車の両輪として進めていかななくてはならないのです。

1. 第三中学校の学校図書館学習センター化に向けたこれまでの動き

荒川区では平成18年度より「学校図書館活性化計画」に基づき学校図書館書籍の整備が進み、平成21年度には学校司書の全校配置を完了しました。

これを受け区内各小中学校では学校図書館改革が進んでいきました。第三中学校では、どの学校より早く学校司書と教科担当による協働授業（コラボ授業）を実践し、平成22年に全国の小中学校の中から全国1位の賞である「学校図書館賞」を受賞しました。

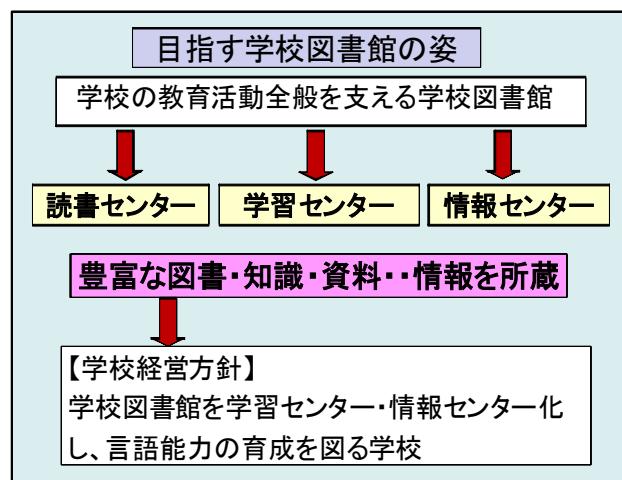
2. 校長として学校経営方針に示した具体的な考え方（学校図書館を学習センター化・情報センター化へ位置づけた動機や思い）

① 第三中学校では、全教育活動でキャリア教育を推進するという学校経営方針に基づいて、学校図書館を活用することで社会人として必要な情報収集力、分析力を培う場所こそ学校図書館と考えます。

② 早い時期より大きく動き出した「学校図書館改革」は荒川区の重大施策であり、資料、学校司書全校配置という恵まれた環境を積極的に生かし、本校では授業改善へと結びつけていきました。現在、調べ学習や学校司書とのコラボ授業を含め、学校図書館活用は加速度的に広がりを見せています。昨年度は、年間を通じて学校図書館授業が行われ、その利用回数は450回を超えました。

③ 言語能力を培う場所こそ学校図書館であると考えます。言語能力の育成（新学習指導要領のねらい）を推進するため学校図書館活用は不可欠です。

④ 学習センターとしての活用を進め、授業での活用方法を確立し授業力向上へと結び付けます。一般的にこれまでの学校経営方針では、具体的な数値目標を示すことが少なかったと認識していますが、私は学校経営方針にこそ具体的な数値を明記すべきと考えています。数値目標を設定することで学校組織全体の取り組みが十分であったかどうかを検証します。ここで具体的な数値をどう設定するのかというと、当然、校長の独断ではなく、学校司書、司書教諭、学校図書館特命担当と綿密



な打ち合わせを行い、その上で期待する目標値を設定します。そして数値目標が達成できなかった場合には、何がその原因で、どう改善すればクリアできるのかを議論します。そのプロセスこそが重要で学校図書館の活用につながるものと考えています。

【令和元年度、学校経営方針に示した数値目標】

<p>【学校図書館学習センター化・情報センター化推進事業】</p> <p>学校図書館を授業活用という視点で改善を図る。特に書籍使用のみならず、学校司書との協働授業（コラボ授業）やタブレットPCと書籍の併用等を積極的に取り入れる。</p>	<p>〔取組指標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館開館日245日以上を目指す。 学校司書と教科担当教員との「コラボ授業」を年間300時間以上学校図書館で実施する。回数とともに質の向上を図る。 <p>〔成果指標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館利用者生徒数を累積16,000人以上、 貸出冊数累積8,000冊以上の数値目標を達成する。
---	--

3. 学校図書館活用授業の実践

キャリア教育を前提とした授業改善には、ICT教育推進と学校図書館改革が大きな柱となります。第三中学校では、調べ学習を中心とした学校図書館活用授業を積み重ねてきました。このような学校図書館学習センター化を進めるには、当然、これまでであった学校図書館がそのまま授業に使えるものではなく、授業を前提にしたレイアウトの変更、資料の購入、保護者ボランティアの皆様による装飾やファイリングの作成、テーマに特化した資料コーナー等、情報センター化としての役割も極めて重要となります。これまで多くの皆様のご協力をいただきながら第三中学校の学校図書館改革が進められてきました。

学校図書館授業が単なるイベントや行事のまとめの作業をする場とするのではなく、日常的に授業で活用する場面を設定することが、授業の質の向上に結びつくものと考えています。大切なことは様々な要素（例えば学校図書館やタブレットPC…等）を取り入れることのみで授業が変わるのではなく、その要素を使い、どのような能力を育成するのがしっかりと押さえられていなければならないと考えます。学校図書館活用により、社会人として必要な情報収集力、分析力を培い、そこで学んだクリティカルな読みや文章表現力は、荒川区の行事である「小論文コンテスト」「調べる学習コンテスト」等にも結びつきます。学校図書館という場での学びは、延長線上に社会人としての求められる能力を身につけることにつながると考えます。

単に授業活用を奨励するかけ声だけで学校図書館授業が進む訳ではありません。本校では学校司書による教職員向け図書館便りで最新情報や授業活用の要素、実践事例を紹介しています。授業で目指す方向性はメディアリテラシーを身につけよう、クリティカルリーディング、発表による自己表現と内容は様々です。学校司書と教科担当が授業での構成を練り上げ、学校図書館活用授業へと進めていきます。当然、学校図書館という場所だけでなく、カートで資料を移動させ、教室授業でのブックトークや必要に応じて授業を支援する書籍をそろえるなどの形式も進めています。

タブレットPCでの検索データと書籍を併用した授業の増加



書籍活用による議論型授業により、議論する能力を高める

